

第3次小田原市環境基本計画見直し（案）について

1 見直しの具体的内容

≪第1章 環境基本計画の基本的事項≫（p 1～13）

（1）社会情勢の変化の反映（p 2～9）

①第3次環境基本計画策定後（R4年度以降）の本市の環境施策に影響を与える世界や国の社会情勢の変化について追加

- ・国による第六次環境基本計画の策定（p 3）
- ・脱炭素社会の実現に関する国際会議や法改正の内容（p 3～4）
- ・サーキュラーエコノミー、ネイチャーポジティブなど新たな視点、化学物質などの新たな環境課題の追加（p 5～7）

②第3次環境基本計画策定後（R4年度以降）の本市における主な動向の追加

- ・脱炭素先行地域へ選定（p 9）
- ・第7次小田原市総合計画の策定（p 9）

（2）計画期間の変更及び令和7年度見直しについて記載（p 12）

- ・令和7年度見直しの状況を反映
- ・今後の計画見直しは、取組内容の変化等を踏まえ、必要に応じ実施する旨を記載。

≪第2章 小田原市の現況、課題、市民意識≫（p 14～37）

（1）「2 これまでの成果と課題」に第3次環境基本計画策定後の内容を追加（p 22～）

- ・『第2次環境基本計画における5つの目標』に紐づく『第3次環境基本計画における各施策』の中間評価までの取組内容と課題を追記。

第2次環境基本計画 の5目標	第3次環境基本計画 の施策	追記内容	記載 頁
(1)環境保全の意識 向上と活動	施策1 地域循環共 生圏の構築 施策2 多様な主体 の育成・活躍の推進	【取組内容】 森里川海ブランド等の地域資源を生か したコンテンツ創出、環境志民NWの機 能強化、子どもを中心にした環境学習な ど 【課題】 NWのプラットフォーム機能の更なる 強化、子ども以外の市民や企業を含む環 境活動参加の推進等	p 24
(2)地球温暖化の推	施策3 脱炭素	【取組内容】	p 26

進		<p>家庭・事業者への再生可能エネルギー導入などの促進、啓発活動を通じた環境に配慮したライフ・事業スタイルへの転換促進、電力地産地消 PF、脱炭素先行地域など脱炭素施策の基盤構築</p> <p>【課題】</p> <p>2030 カーボンハーフに向けた電源開発、エリアエネルギーマネジメントの更なる推進、非電力の脱炭素化、市内非化石価値の市場価値化など</p>	
(3)循環型社会の形成	施策4 資源循環	<p>【取組内容】</p> <p>食品ロス・プラスチックごみの削減・資源化に向けた取組、市民が取り組みやすい収集運搬体制への見直し</p> <p>【課題】</p> <p>財政負担及び重要課題とのコベネフィットを考慮したごみの減量化資源化策の推進、ごみ広域化の着実な推進。</p> <p>既存施設が稼働後 46 年経過しており、適切な維持管理を実施する必要がある。</p>	p 28
(4)自然環境の保全	施策5 自然共生	<p>【取組内容】</p> <p>森里川海の各フィールドで活動団体支援を通じた自然環境保全の実施、イベント実施による環境保全意識の醸成の実施</p> <p>【課題】</p> <p>ネイチャーポジティブを踏まえた市内の生物多様性、保全活動の見える化・市場価値化の推進</p>	p 31
(5)生活環境の保全	施策6 生活環境保全	<p>【取組内容】</p> <p>地域住民と協働した取組など地域が主体となった持続可能な街づくりの推進、ドッグランの試行開催など市民ニーズに応じた事業の実施</p> <p>【課題】</p> <p>地域が主体となったまちづくりの推進</p>	p 33

		のための担い手確保、環境美化意識の更なる向上に繋がる啓発等の実施	
--	--	----------------------------------	--

≪第3章 望ましい環境像、取組の方向性、計画の体系≫（p38～47）

- （1）「◆小田原版地域循環共生圏の構築」に「**地域自給圏**」について追記（p42）
- （2）「3 計画の体系」について、計画の見直し内容を反映し、記述を変更
 - ・詳細指標の目標値について、令和12年度目標としている旨を追記（p44）
- （3）【計画の体系図】を第4章以降の内容にあわせ修正（p46～47）

≪第4章 望ましい環境像を実現するための施策≫（p48～75）

- ・中間評価までの進捗状況や課題、社会情勢の変化などを踏まえ取組内容や指標などについて見直し

- ・第1回環境審議会の意見を踏まえた内容を反映

（1）指標見直しの考え方

- ・指標見直しについては、次の①～③のとおり見直しを行った。見直し理由の詳細については、別紙「小田原市環境基本計画に係る指標新旧対応表」のとおり。

①	根拠となる調査を実施することができないため、見直し前の指標を削除し、新たな指標とする。
②	見直し前の指標に新たに指標を追加し、今後の取組の進捗状況を確認するため、複数指標とする。
③	その他

- ・目標年次は、基本的に計画最終年度の令和12年度として、目標値を設定している。
 - ・令和12年度目標を設定するにあたり、令和6年度実績値を追記。
 - ・新たに追加した指標は、従前からの指標にあわせ令和2年度を基準年と設定している。
- ※令和2年度時点で制度自体が存在しないものなどについては「－」で表記。

（2）各施策の主な見直し内容

施策1 地域循環共生圏の構築

① 成果指標の見直し（p48～49）

（新指標）「小田原の森里川海に触れる体験をした旅行者の割合」

- ・考え方① 見直し内容、理由：指標新旧対応表NO.1のとおり

取組の柱 1-1 環境資源の魅力発信

② 詳細指標の見直し（p 50）

（新指標）「森里川海ブランドの認定数」「森里川海ブランド認定品の出店回数」

- ・考え方② 見直し内容、理由：指標新旧対応表NO.2 のとおり。

③ 主な取組の記載内容及び重点的な取組を今後の取組内容にあわせ見直し（p 50）

- ・他分野との連携によって、環境資源の魅力を発信・広報・PRする方向性として記載
- ・森里川海ブランドのみでなく、地域資源を生かしたコンテンツ創出を重点的な取組に追加

取組の柱 1-2 先導的事業の推進

④ 主な取組に、**環境活動支援事業**及び**環境再生プロジェクト**を新たに位置づけ（p 52）

- ・従前の「地域循環共生圏の構築に向けた検討や事業実施」「環境課題への対応」などは、環境保全活動に係るプラットフォーム機能（環境志民NW）の強化や、環境活動支援事業の実施の中で取組を推進していくため、記載内容を見直し。
- ・地域循環共生圏のモデル事業のひとつとして新たに取組を推進する「環境再生プロジェクト」を主な取組に追加。

施策 2 多様な主体の育成・活躍の推進

⑤ 【2030年に目指す姿】を今後の取組の方向性を反映した記載を追加（p 53）

- ・中間評価における課題（幅広い主体を対象としていく）を受け、子どもだけでなく大人や企業等幅広く対象とする旨を追記。

⑥ 成果指標の見直し（p 53）

（新指標）「環境に関するイベントに参加している人の割合」

「環境に関するイベントに参加している人数」

- ・考え方②、③ 見直し内容、理由：指標新旧対応表NO.4 のとおり。

取組の柱 2-1 環境学習・環境活動の推進

⑦ 主な取組の記載内容を今後の取組内容にあわせ見直し（p 54）

- ・活動主体を市民のみならず、市外、企業など幅広く展開する視点で記載を見直し。
（市民による環境学習・活動推進→環境学習・活動推進）
- ・市全体で実施する環境に資するイベント等を把握したうえで働きかけ等を行っていき
たいため、特定事業（森林環境教育・木育）の記載を削除

施策3 脱炭素

⑧ **【目標】【2030年に目指す姿】**について、社会情勢の変化や市の取組状況に合わせて追記、見直し。(p55)

- ・エネルギー地産地消、建物のZEB・ZEH化、EV普及など

取組の柱3-1 地球温暖化対策の推進 ※気候変動対策推進計画に整合

⑨ 詳細指標の見直し (p56)

(新指標)「電気自動車普及台数」

「長期優良住宅等認定数」

「小田原市再エネ電力使用事業所登録制度における達成事業所数」

- ・考え方② 見直し内容、理由：指標新旧対応表NO.7のとおり。

⑩ 主な取組の記載内容及びスケジュールを今後の取組内容にあわせ見直し (p57)

- ・中間評価における課題をうけ、**温室効果ガス削減価値の市場価値化**や、市民の行動促進として**市民エネルギー会議(仮)**等新たな取組の追加。
- ・先進的なモデル、脱炭素技術等の市内実装の明記。

取組の柱3-2 エネルギーの地域自給の推進 ※気候変動対策推進計画に整合

⑪ 詳細指標の見直し (p58)

- ・考え方③ 見直し内容、理由：指標新旧対応表NO.8のとおり。

⑫ 主な取組の記載内容を今後の取組内容にあわせ見直し (p58)

- ・電力地産地消プラットフォームの構築・運営や公共施設における地産電力使用について新たに位置づけ。
- ・実施済事業(地域マイクログリッドを通じた先進技術の実装、産業用蓄電池を活用したエネルギーマネジメント事業)は、脱炭素技術の市内実装に含まれるため、記載削除。

施策4 資源循環 ※一般廃棄物処理基本計画に整合

⑬ **ゼロエミッションの実現を目指す視点**を追加 (p59)

取組の柱4-1 ごみの減量化・資源化の推進

⑭ 詳細指標の見直し (p60)

(新指標)「家庭ごみにおける1人1日当たり燃せるごみ排出量」

「資源化率」

- ・考え方② 見直し内容、理由：指標新旧対応表NO.10のとおり。

- ⑮ 主な取組の記載内容及び重点的な取組を今後の取組内容にあわせ見直し（p 60）
- ・ゼロエミッションの実現に向け、資源化を促進していくために、**生ごみの減量化・資源化、剪定枝の資源化**について重点的な取組に追加するとともに、線表において、**製品プラスチック資源化**について明記。ほか**紙おむつの資源化、ごみ処理有料化の在り方検討**について新たに位置づけ。（第1回意見対応表NO10）

取組の柱 4-2 ごみの適正処理 ※一般廃棄物処理基本計画に整合

- ⑯ 詳細指標の見直し（p 62）
- （新指標）「**排ガスが大気排出基準値以下に維持されている割合**」
- ・考え方③ 見直し内容、理由：指標新旧対応表NO.11のとおり。
- ⑰ 主な取組の記載内容を今後の取組内容にあわせ見直し（p 62～63）
- ・**広域廃棄物処理施設整備に関する構想等**について新たに位置づけ

取組の柱 5-1 生態系の維持保全

- ⑱ ネイチャーポジティブの推進の視点を追加。（p 66）
- ⑲ 外来種に対応する方向性について追記。（第1回意見対応表NO12・13）（p 66）
- ⑳ 詳細指標の見直し（p 66）
- （新指標）「**農作物の鳥獣被害額**」
- 「**生物多様性に係る環境保全に取り組んでいる区域**」
- ・考え方② 見直し内容、理由：指標新旧対応表NO.13のとおり。
- ㉑ 主な取組の記載内容について⑱⑲を踏まえ見直し
- ・「**自然環境サイトの認定拡大・支援誘致**」について新たに位置づけ。
 - ・外来生物への対策について明記。

取組の柱 5-2 森里川海の保全・活用

- ㉒ 詳細指標の目標値について（森）（p 68）
- ・「小田原市森林整備面積」の目標値（33ha）は、令和4～6年度実績の平均値であり、この整備面積を**維持**していきたい考えによる。
- ㉓ 詳細指標の見直し（里）（p 69）
- （新指標）「**耕作放棄地累計解消面積**」
- ・考え方③ 見直し内容、理由：指標新旧対応表NO.15のとおり。
- ㉔ 詳細指標の見直し（川）（p 69）
- （新指標）「**酒匂川水系保全協議会実施イベント参加者数**」
- 「**河川のBODの環境基準適合率**」
- ・考え方② 見直し内容、理由：指標新旧対応表NO.16のとおり。

②⑤ 詳細指標の見直し（海）（p 69）

（新指標）「小田原漁港の水揚げ量」

「江之浦漁港のアワビの水揚げ量」

・考え方② 見直し内容、理由：指標新旧対応表NO.17のとおり。

②⑥ 主な取組の記載内容を今後の取組内容にあわせ見直し（p 70）

施策 6 生活環境保全

②⑦ 成果指標の見直し（p 71）

・考え方③ 見直し内容、理由：指標新旧対応表NO.18のとおり。

取組の柱 6-1 快適な街の維持保全

②⑧ 詳細指標の見直し（p 72）

（新指標）「再整備した街区公園数」

「まちなか緑化助成事業で緑化された延長」

・考え方② 見直し内容、理由：指標新旧対応表NO.19のとおり。

取組の柱 6-2 美化の推進と衛生環境の保持

②⑨ 詳細指標の見直し（p 74）

・考え方③ 見直し内容、理由：指標新旧対応表NO.20のとおり。

③⑩ 主な取組の記載内容を今後の取組内容にあわせ見直し（p 74）

・中間評価における課題（環境美化意識の更なる向上に向けた啓発等）をうけ、**ボランティア清掃の活動支援**を重点的な取組とし、この取組の中で普及啓発・支援等を実施。

・（公財）かながわ海岸美化財団との連携について明記（意見対応表NO.15）

取組の柱 6-3 公害対策

③⑪ 新たな公害問題として **PFAS 等への対応**について明記（p 75）（意見対応表NO.16）

③⑫ 主な取組の記載内容を今後の取組内容にあわせ見直し（p 75）